

PHR導入による 新しい病院受診方法 と 情報活用の展望

新純一¹⁾ 神成文裕²⁾ 織田徹也³⁾




こうのす共生病院 システム情報管理課¹⁾ 同理事長²⁾・病院長³⁾

利益相反の有無：無





※この演題に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

病院の課題

患者様側の声

-  受診に半日要することが多く、他の予定を入れにくい
仕事を抜けて病院に来ている…
子供のお迎えがある…
-  体調が悪い中、長時間も待たされるのはとてもしんどい
気持ちが悪い…
頭が痛い…
足が痛い…
-  予約しているのに、時間通りに診察してもらえたことがない

病院側の課題

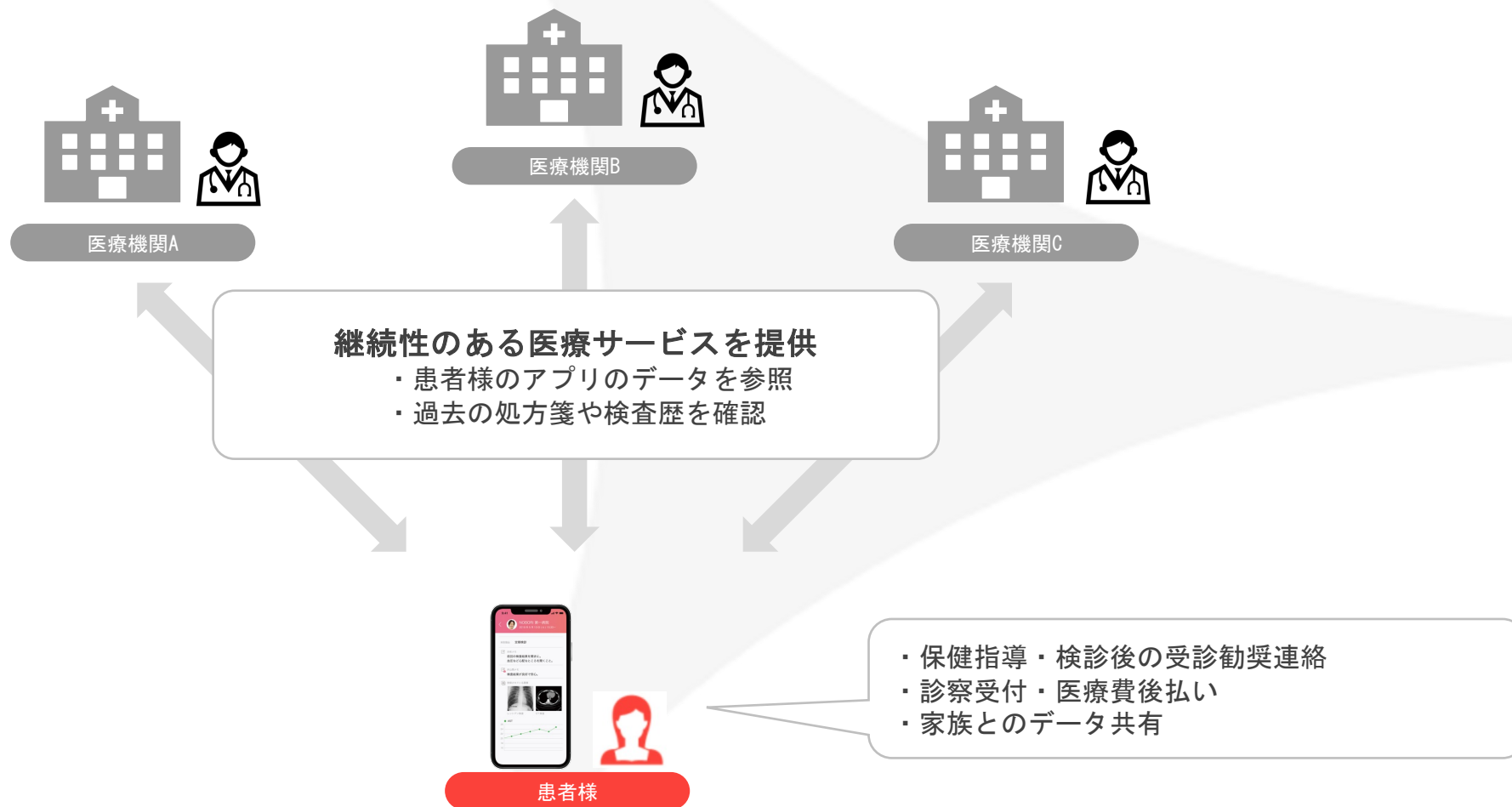
-  駐車場・待合ソファ数の問題
-  院内感染
-  サービス利用における複数のアプリ利用の複雑化
なるべく患者様・職員に負担がないように一本化したい…
-  セキュリティ対策として、PHRの特性を生かし、基本的に個人に管理してもらいたい

いろんな事情があって病院に受診をしている。患者様の時間を有効に使っていただけるように…

 **スキマ時間に受診できるような環境を構築したい！**

PHRってなに？

患者様個人が、医療機関が開示する医療情報・健診情報を閲覧・管理でき、通院が便利になる機能を利用できるスマホアプリのサービス



自分の医療情報・健康情報をスマホで持ち歩く

PHRでどんなことができるの？

外来

通院履歴/予約情報管理

通院履歴、診療・検査の予約を確認

自動受付・診察順番確認

病院到着前に、当日の診療の受付
待合の診察順番の画面内容を表示

※近日連携予定

医療費後払いサービス

診察終了後、会計待ちせずに帰宅可能

共有

病院からお知らせ

病院からのお知らせや受診勧奨などに使用

家族との医療情報の共有

お子様やご両親、配偶者の医療情報を管理。
見守り機能として活用

他施設への医療情報の共有

自分の医療情報を他の施設へ共有

日常管理

医療情報をスマホで持ち歩

く

検査結果、血液検査、お薬情報、健診結果など

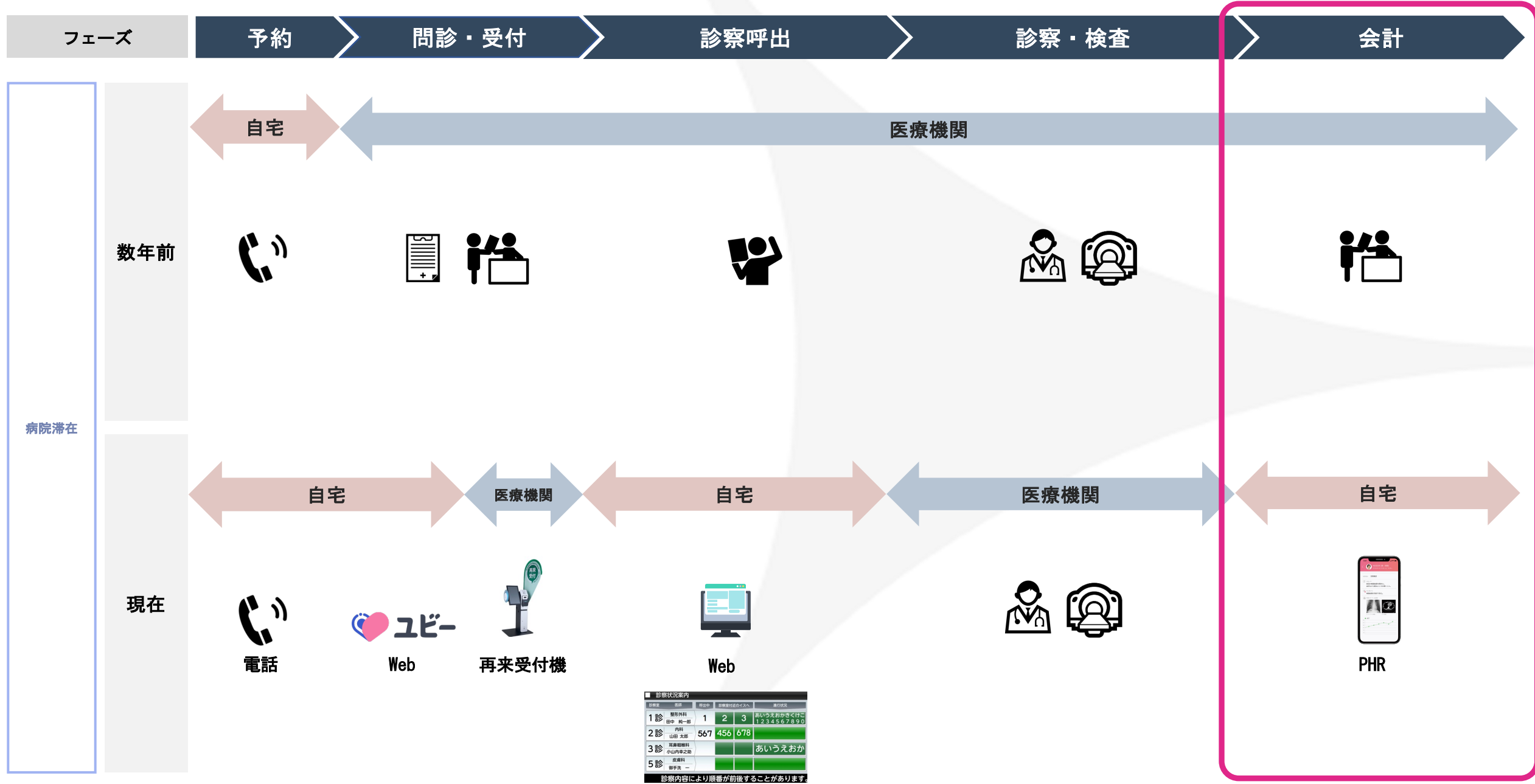
ワクチンや血圧手帳で管理

接種した日にちや毎日の血圧をアプリで管理

ヘルスケアアプリと連携

体重や歩数などの健康を管理

病院滞在時間の比較



導入後の効果

	受付から診察開始までの時間	診察開始から診察終了までの時間	診察終了から医事システム入力終了までの時間	医事システム入力終了から会計終了までの時間	病院滞在時間(最短)
PHR、自動精算機導入前	0 : 45	0 : 06	0 : 19	0 : 09	1 : 19
医療費後払い機能のみ利用	0 : 45	0 : 06	?	—	1 : 10

カルテ記入終了後
次回検査説明や採血など行っている為、データ集計から除外

調査期間(2023年11月1日より2023年3月31日)
平均値
N=13736名

9分 病院滞在時間の短縮が可能

※PHRの医療費後払いは、20時までに医事システムにおいて処理が終了していればいため、院内で待たれる方を優先的に会計処理している関係で、データが取れないためPHR利用していないデータから算出

導入後の院内の様子



〈設置場所：受付付近に設置〉

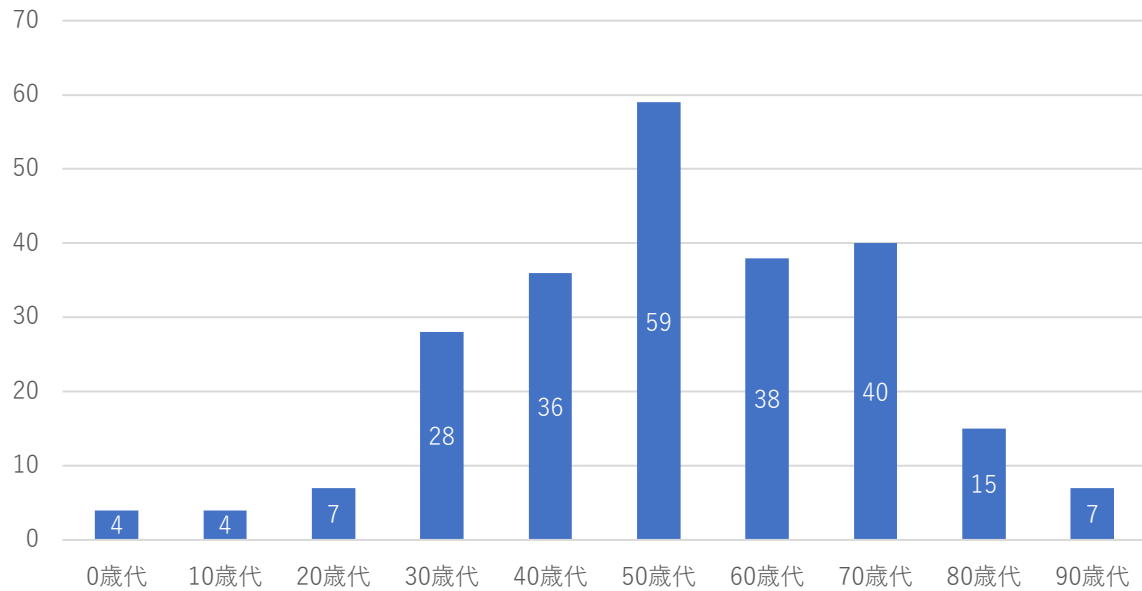
導入後の院内の様子

パンフレット、カード、ポスターで周知

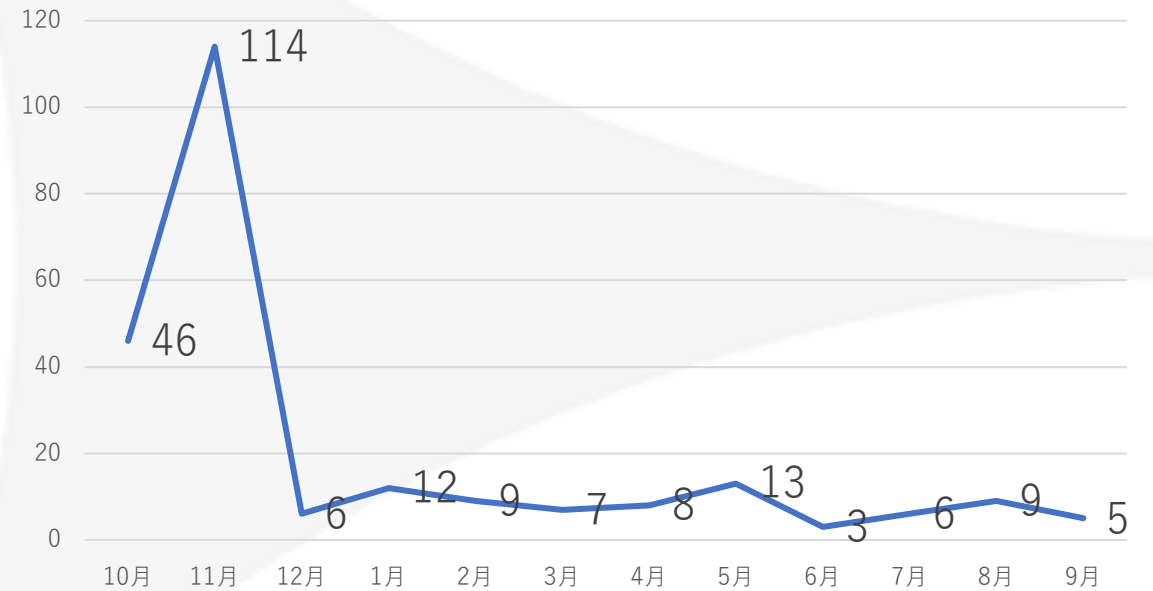


新規登録者数（年代別・月別）

PHR登録者数(年代別)



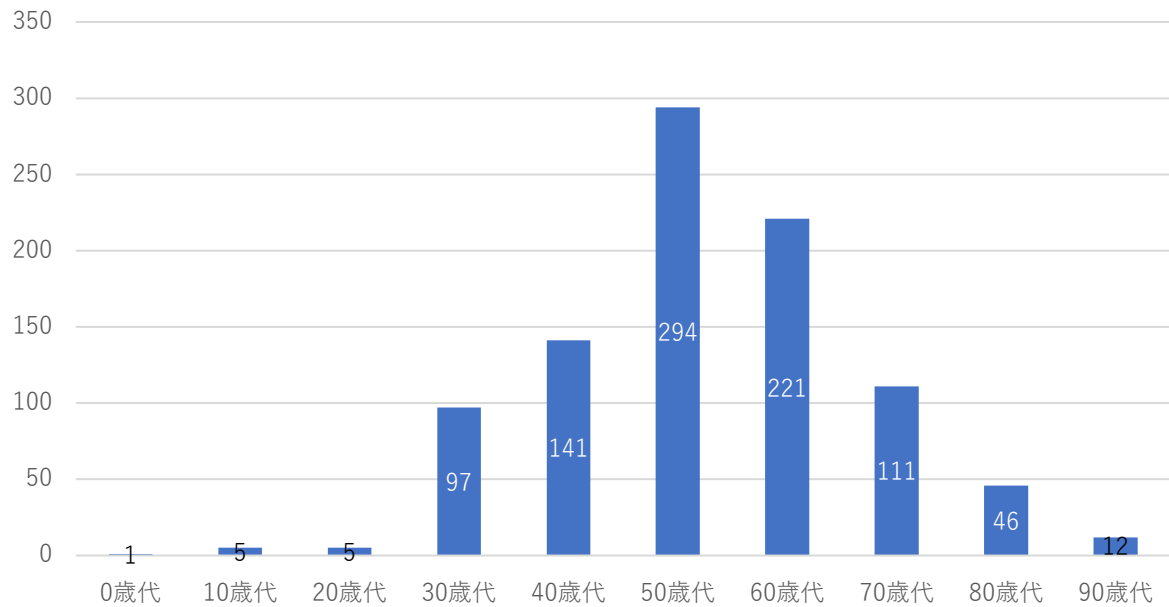
PHR登録者数(月別)



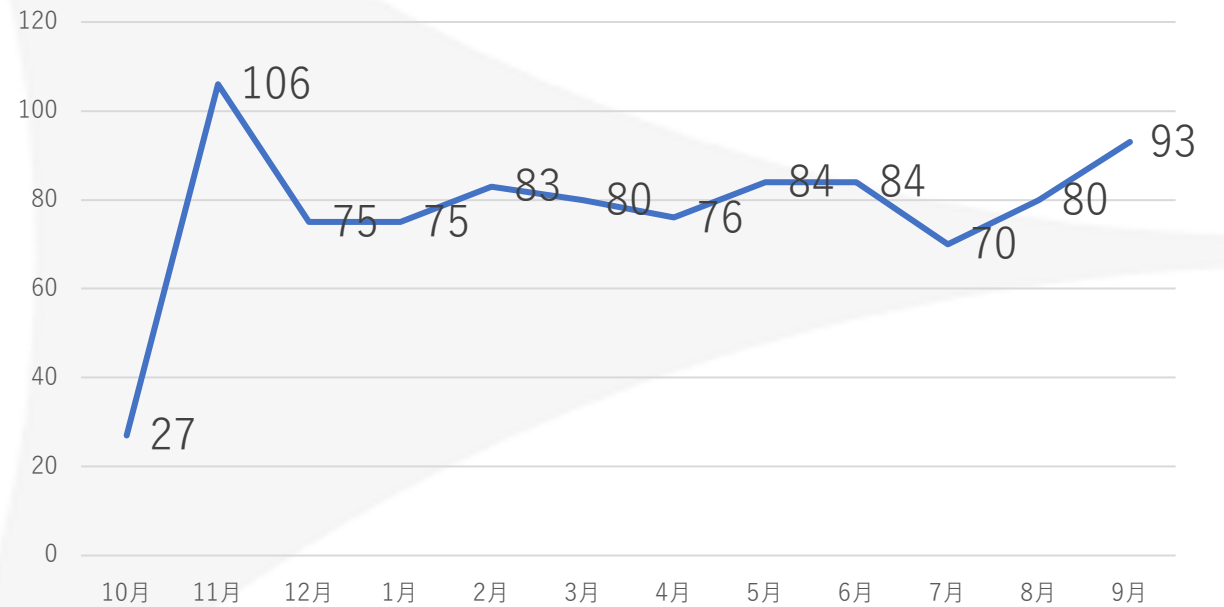
合計238名
※職員除く

医療費後払い（年代別・月別）

医療費後払い(年代別)





医療費後払い(月別)




合計933回

導入後の課題

 PHRの周知が不足、患者様側から利用したいという声が少ない。
プロダクトアウトからマーケットインを目指す。

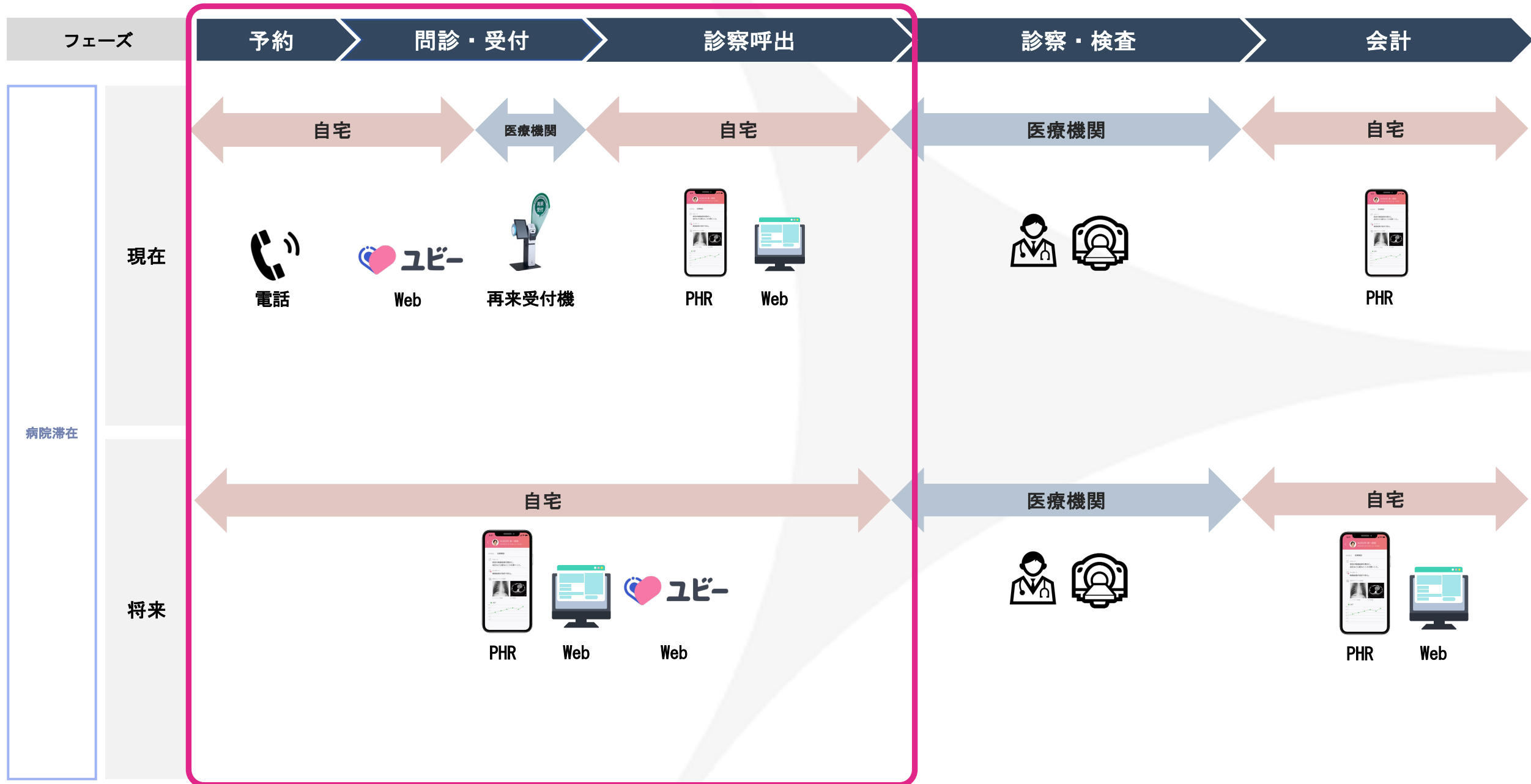
 1医療機関だけの利用ではなく、「地域」としてPHRを活用する。

 医療機関ごとに別のPHRアプリを導入すると患者様への負担が生じる。
地域全体が同じPHRを用いて、一貫性と安心を患者様に与えることが重要。

 PHR(医療情報)の連携費用が高額なため、普及には時間がかかる。

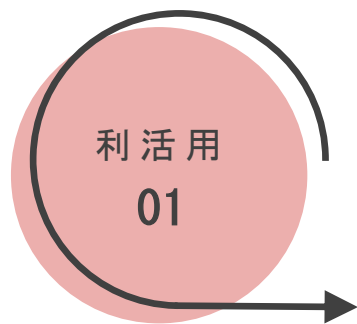
※プロダクトアウト：会社の方針や作りたいもの、作れるものを基準に商品開発を行うこと。
※マーケットイン：顧客の意見・ニーズを汲みとって製品開発を行うこと。

【今後の展望】院内滞在時間をより短く



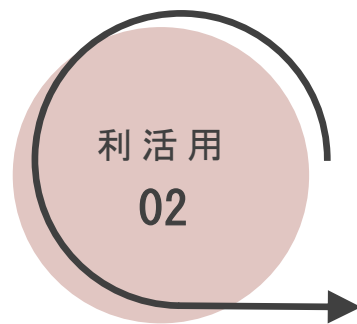
【今後の展望】各イベントでの活用方法

個人で管理するという特性を生かして、



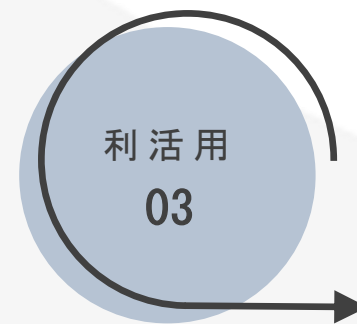
在宅でのバイタル管理

バイタルの変動から病院受診への誘導や訪問するなどの**事前アプローチが可能**。



災害時での情報共有

ネットワークが使えない・端末が足りない・受診歴がないなどから**情報収集できない問題が解消**される。



救急隊による確認

現地到着時や搬送の前に瞬時に患者の情報を**正確に把握**し、適切な病院先に搬送できるよう**搬送時間の短縮**に効果を発揮。



透析情報の連携

別医療機関が透析情報を閲覧し、治療を行える。**外出への不安解消**や**長期の旅行**が実現。

医療情報のボタンをつなぐ

—新しい未来のカタチ—



安心カード	
氏名	
性別	
年齢	
住所	
連絡先	
緊急連絡先	
アレルギー	
既往歴	
現在服用薬	
かかりつけ医	
かかりつけ科	
かかりつけ病院	
かかりつけ薬局	
かかりつけ診療所	
かかりつけ訪問看護	
かかりつけ介護施設	
かかりつけ福祉サービス	
かかりつけ相談窓口	
かかりつけ相談機関	
かかりつけ相談センター	
かかりつけ相談窓口	
かかりつけ相談機関	
かかりつけ相談センター	

